

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月14日

【四半期会計期間】 第69期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 東テク株式会社

【英訳名】 TOTECH CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 長尾 克己

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋本町三丁目11番11号

【電話番号】 (03)6632-7000

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部副本部長 金井 俊和

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋本町三丁目11番11号

【電話番号】 (03)6632-7003

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部副本部長 金井 俊和

【縦覧に供する場所】 東テク株式会社 大阪支店
(大阪市中央区平野町四丁目2番3号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第68期 第2四半期 連結累計期間	第69期 第2四半期 連結累計期間	第68期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (百万円)	55,095	63,721	126,696
経常利益 (百万円)	2,961	4,078	8,172
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,917	2,662	5,230
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,400	3,945	6,115
純資産額 (百万円)	42,460	47,934	45,492
総資産額 (百万円)	84,040	95,072	92,058
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	140.17	194.34	382.29
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	50.5	50.4	49.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	81	1,500	4,758
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,783	208	5,032
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,072	1,009	2,649
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	6,230	7,360	4,938

回次	第68期 第2四半期 連結会計期間	第69期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	129.59	175.55

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 1株当たり四半期(当期)純利益については、その算定上の基礎となる期中平均株式数を計算するに当たり「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社の普通株式を控除対象の自己株式に含めております。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第68期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、第68期第2四半期連結累計期間の関連する主要な経営指標等について、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益・設備投資・生産・個人消費等の各面で緩やかな持ち直しが続きましたが、一方で円安・インフレの進行とエネルギー価格高止まりによるコスト上昇が懸念され、先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く建設業界におきましては、安定的な公共投資に加え民間設備投資も需要が旺盛であるものの、慢性的な建設労働者不足による労務費の高騰や建設資材の高止まり等も影響し、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況の下で、当社グループでは、中期経営計画に掲げている「人にここちよい」企業グループの実現を目指し、人財への投資・ESG経営・コア事業の強化・海外事業の拡大により社会的価値及び経済的価値の創造を図るべく各種施策を実行しております。中期経営計画で掲げた数値目標（2025年度売上高1,500億円、経常利益100億円等）の達成に向け、引き続き戦略的な経営を行ってまいります。

中期3か年経営計画における初年度の当第2四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は以下のとおりとなりました。

売上高は、良好な受注環境を背景に特に工事セグメントにて順調に売上が伸長し、63,721百万円(前年同期比15.7%増)となりました。利益面につきましては、売上高の増加に比例した順調な売上総利益が計上されたことにより、給与水準の引き上げ(ベースアップ)を実行した上で、営業利益は3,616百万円(前年同期比37.5%増)となりました。またこれに伴い、経常利益は4,078百万円(前年同期比37.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,662百万円(前年同期比38.9%増)となりました。

なお、当社グループは売上高が第4四半期連結会計期間に集中する傾向があり、業績には季節的変動がありません。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

<商品販売事業>

商品販売事業におきましては、空調機器、制御機器、設備機器を中心とした機器販売と、販売した機器のスポットメンテナンスや保守を行っております。売上高は39,711百万円(前年同期比9.7%増)、売上総利益は8,231百万円(前年同期比7.2%増)となりました。

<工事業業>

工事業業におきましては、計装工事、管工事ほか各種工事の設計・施工と、施工工事に対するスポットメンテナンスや保守を行っております。売上高は25,021百万円(前年同期比26.0%増)、売上総利益は7,165百万円(前年同期比20.1%増)となりました。

資産合計は、前連結会計年度末に比べて3,014百万円増加し95,072百万円となりました。これは、現金及び預金や電子記録債権の増加による流動資産の増加1,315百万円、保有有価証券の時価上昇等による投資その他の資産の増加1,199百万円及び建設仮勘定が829百万円増加したことが主な要因です。

負債合計は、前連結会計年度末に比べて572百万円増加し47,138百万円となりました。これは支払手形及び買掛金や電子記録債務の減少1,905百万円に加え、賞与の支給に伴う賞与引当金の減少1,027百万円、さらに、未払法人税等が748百万円減少した一方で、有利子負債が2,733百万円、その他流動負債が909百万円、繰延税金負債が578百万円それぞれ増加したことが主な要因です。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて2,442百万円増加し47,934百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上から配当金の支払等を差し引いた利益剰余金の純増1,107百万円、保有有価証券の時価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加884百万円及び為替相場の変動により為替換算調整勘定が405百万円増

加したことが主な要因です。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は50.4%となり、前連結会計年度末に比べ1.0%上昇しました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べて2,422百万円増加し7,360百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動の結果得られた資金は1,500百万円(前年同期は81百万円の収入)となりました。これは、仕入債務の減少1,939百万円、法人税等の支払額1,749百万円及び賞与引当金の減少1,027百万円により資金が減少したものの、税金等調整前四半期純利益4,063百万円の計上、減価償却費693百万円の計上、契約負債の増加などによるその他の増加661百万円、未収入金の減少360百万円及びのれん償却額280百万円の計上により資金が増加したことが主な要因です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動の結果使用した資金は208百万円(前年同期は2,783百万円の支出)となりました。これは、定期預金の払戻による収入1,089百万円があった一方で、有形固定資産取得による支出1,278百万円があったことが主な要因です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動の結果得られた資金は1,009百万円(前年同期は1,072百万円の収入)となりました。これは、配当金の支払額1,555百万円があった一方で、借入金の純増額2,733百万円があったことが主な要因です。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	46,308,000
計	46,308,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	13,988,000	13,988,000	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	13,988,000	13,988,000	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日	-	13,988,000	-	1,857	-	1,829

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
日本レイ株式会社	東京都渋谷区広尾 4 1 11	1,760	12.78
ダイキン工業株式会社	大阪府大阪市北区梅田 1 - 13 - 1	1,000	7.26
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND(PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内 2 7 1)	894	6.49
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町 2 11 3	831	6.04
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町 1 - 5 - 5	670	4.87
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内 1 - 1 - 2	670	4.87
東テクグループ従業員持株会	東京都中央区日本橋本町 3 - 11 - 11	631	4.59
草野 和幸	東京都渋谷区	392	2.85
昭和鉄工株式会社	福岡県糟屋郡宇美町宇美3351 - 8	378	2.75
住友商事株式会社	東京都千代田区大手町 2 - 3 - 2	315	2.29
計		7,542	54.78

(注) 上記のほか当社所有の自己株式220千株があります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 220,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,754,700	137,547	-
単元未満株式	普通株式 13,300	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	13,988,000	-	-
総株主の議決権	-	137,547	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数20個が含まれております。

2. 「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式58,900株(議決権の数589個)は、四半期連結財務諸表において自己株式として表示しておりますが、従業員の議決権行使状況を反映した信託管理人の指図に従い議決権行使されるため、上表では「完全議決権株式(その他)」の普通株式に含めております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東テク株式会社	東京都中央区日本橋本町 3 - 11 - 11	220,000	-	220,000	1.57
計	-	220,000	-	220,000	1.57

(注) 上記のほか「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式58,900株を四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,052	7,421
受取手形、売掛金及び契約資産	29,412	3 28,297
電子記録債権	7,976	3 8,954
棚卸資産	1 4,424	1 4,764
未収入金	1,917	1,557
その他	371	436
貸倒引当金	51	12
流動資産合計	50,103	51,418
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	12,489	12,657
土地	8,755	8,842
リース資産	1,125	1,163
建設仮勘定	1,948	2,778
その他	1,058	1,115
減価償却累計額	4,738	5,034
有形固定資産合計	20,639	21,521
無形固定資産		
のれん	1,633	1,451
ソフトウェア	1,462	1,199
ソフトウェア仮勘定	69	151
その他	1,153	1,133
無形固定資産合計	4,318	3,936
投資その他の資産		
投資有価証券	12,655	13,945
繰延税金資産	449	246
退職給付に係る資産	277	308
その他	3,690	3,771
貸倒引当金	76	76
投資その他の資産合計	16,996	18,195
固定資産合計	41,955	43,653
資産合計	92,058	95,072

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,480	3 13,626
電子記録債務	9,030	3 6,978
短期借入金	6,790	9,117
未払法人税等	1,973	1,224
賞与引当金	2,956	1,929
役員賞与引当金	13	14
その他	3,535	4,445
流動負債合計	37,779	37,336
固定負債		
長期借入金	5,537	5,943
繰延税金負債	1,113	1,692
役員退職慰労引当金	162	138
退職給付に係る負債	534	539
その他	1,436	1,486
固定負債合計	8,785	9,801
負債合計	46,565	47,138
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,857	1,857
資本剰余金	2,259	2,272
利益剰余金	35,833	36,941
自己株式	261	222
株主資本合計	39,688	40,848
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,376	6,261
為替換算調整勘定	412	818
退職給付に係る調整累計額	14	6
その他の包括利益累計額合計	5,803	7,086
純資産合計	45,492	47,934
負債純資産合計	92,058	95,072

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	55,095	63,721
売上原価	41,448	48,333
売上総利益	13,646	15,387
販売費及び一般管理費	2 11,015	2 11,770
営業利益	2,630	3,616
営業外収益		
受取利息	6	19
受取配当金	128	149
仕入割引	189	194
雑収入	93	205
営業外収益合計	417	568
営業外費用		
支払利息	34	48
貸倒引当金繰入額	1	-
支払保証料	32	39
為替差損	-	4
雑損失	18	13
営業外費用合計	87	106
経常利益	2,961	4,078
特別損失		
固定資産売却損	-	15
特別損失合計	-	15
税金等調整前四半期純利益	2,961	4,063
法人税、住民税及び事業税	786	1,010
法人税等調整額	257	390
法人税等合計	1,043	1,401
四半期純利益	1,917	2,662
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,917	2,662

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	1,917	2,662
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	107	884
為替換算調整勘定	611	405
退職給付に係る調整額	20	7
その他の包括利益合計	483	1,282
四半期包括利益	2,400	3,945
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,400	3,945

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,961	4,063
減価償却費	650	693
固定資産売却損益(は益)	-	15
のれん償却額	270	280
受取利息及び受取配当金	135	168
支払利息	22	27
賞与引当金の増減額(は減少)	792	1,027
売上債権の増減額(は増加)	804	241
棚卸資産の増減額(は増加)	1,133	329
未収入金の増減額(は増加)	1,410	360
仕入債務の増減額(は減少)	2,508	1,939
未払消費税等の増減額(は減少)	275	231
その他	158	661
小計	1,116	3,110
利息及び配当金の受取額	135	168
利息の支払額	24	29
法人税等の支払額	1,145	1,749
営業活動によるキャッシュ・フロー	81	1,500
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	35	13
定期預金の払戻による収入	83	1,089
有形固定資産の取得による支出	2,911	1,278
有形固定資産の売却による収入	-	67
無形固定資産の取得による支出	23	87
投資有価証券の取得による支出	203	18
その他	305	32
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,783	208
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	3,360	1,620
長期借入れによる収入	2,200	3,854
長期借入金の返済による支出	2,636	2,740
社債の償還による支出	14	-
配当金の支払額	1,664	1,555
その他	172	168
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,072	1,009
現金及び現金同等物に係る換算差額	199	120
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,430	2,422
現金及び現金同等物の期首残高	7,660	4,938
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 6,230	1 7,360

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 棚卸資産の内訳

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
商品	3,738百万円	4,060百万円
貯蔵品	14	5
未成工事支出金	671	698

2. 受取手形割引高及び電子記録債権割引高

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
受取手形割引高	1,428百万円	867百万円
電子記録債権割引高	1,003	1,064

3. 四半期連結会計期間末日満期手形等

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
受取手形	-百万円	47百万円
電子記録債権	-	256
支払手形	-	89
電子記録債務	-	1,259

(四半期連結損益計算書関係)

1. 損益の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年9月30日)

当社グループの営業形態として売上が第4四半期連結会計期間に集中する傾向があるため、第2四半期連結累計期間の売上高は相対的に少なくなる傾向にあります。しかし、人件費等の固定費は四半期ごとに変動する性質ではないため、結果として、第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は少なくなる傾向にあります。

2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
従業員給料及び手当	4,241百万円	4,369百万円
賞与引当金繰入額	1,521	1,553
退職給付費用	201	245

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
現金及び預金勘定	6,358百万円	7,421百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	128	61
現金及び現金同等物	6,230	7,360

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月24日 定時株主総会	普通株式	1,668	122	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金

(注) 2022年6月24日定時株主総会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金1百万円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月2日 取締役会	普通株式	674	49	2022年9月30日	2022年12月2日	利益剰余金

(注) 2022年11月2日取締役会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,555	113	2023年3月31日	2023年6月29日	利益剰余金

(注) 2023年6月28日定時株主総会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金8百万円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年11月1日 取締役会	普通株式	839	61	2023年9月30日	2023年12月1日	利益剰余金

(注) 2023年11月1日取締役会決議による配当金の総額には、「株式給付信託(J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金3百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	商品販売 事業	工事業業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	35,221	19,858	55,080	14	55,095	-	55,095
セグメント間の 内部売上高又は振替高	967	4	972	-	972	972	-
計	36,188	19,863	56,052	14	56,067	972	55,095
セグメント利益	7,676	5,968	13,644	3	13,648	1	13,646

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を行っておりません。

2. セグメント利益の調整額 1百万円は、主にセグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上総利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	商品販売 事業	工事業業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	38,731	24,963	63,694	26	63,721	-	63,721
セグメント間の 内部売上高又は振替高	980	58	1,038	-	1,038	1,038	-
計	39,711	25,021	64,733	26	64,759	1,038	63,721
セグメント利益	8,231	7,165	15,397	16	15,414	26	15,387

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を行っておりません。

2. セグメント利益の調整額 26百万円は、主にセグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上総利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

2022年3月30日に行われたQuantum Automation Pte.Ltd.の企業結合について、前第2四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前第3四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されました。

この結果、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書は、販売費及び一般管理費が8百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益並びに法人税等調整額が8百万円それぞれ減少しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前連結会計年度より、「顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に関する「サービスの種類別売上高」の区分を変更し、従来の「機器販売」「工事施工」「保守・メンテナンス」区分について、「空調事業」「計装事業」「エネルギー事業」「関係会社(国内)」「関係会社(海外)」区分ごとに集計する方法へ変更しております。

当該区分変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間の「サービスの種類別売上高」について組替えを行っております。

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	商品販売 事業	工事業	計		
空調事業					
機器販売	25,775	-	25,775	-	25,775
工事施工	-	0	0	-	0
保守・メンテナンス	1,236	42	1,279	-	1,279
計装事業					
機器販売	315	-	315	-	315
工事施工	-	7,412	7,412	-	7,412
保守・メンテナンス	55	1,108	1,164	-	1,164
エネルギー事業					
機器販売	1,874	-	1,874	-	1,874
工事施工	-	2,619	2,619	-	2,619
保守・メンテナンス	795	419	1,215	-	1,215
関係会社(国内)					
機器販売	2,584	-	2,584	-	2,584
工事施工	-	5,413	5,413	-	5,413
保守・メンテナンス	4,538	1,538	6,077	-	6,077
関係会社(海外)					
機器販売	-	-	-	-	-
工事施工	-	830	830	-	830
保守・メンテナンス	-	728	728	-	728
太陽光発電事業	-	-	-	14	14
内部売上高	1,954	256	2,210	-	2,210
顧客との契約から生じる収益	35,221	19,858	55,080	14	55,095
外部顧客への売上高	35,221	19,858	55,080	14	55,095

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	商品販売 事業	工事業	計		
空調事業					
機器販売	28,582	-	28,582	-	28,582
工事施工	-	-	-	-	-
保守・メンテナンス	1,267	49	1,317	-	1,317
計装事業					
機器販売	702	-	702	-	702
工事施工	-	8,383	8,383	-	8,383
保守・メンテナンス	70	1,294	1,364	-	1,364
エネルギー事業					
機器販売	1,545	-	1,545	-	1,545
工事施工	-	4,499	4,499	-	4,499
保守・メンテナンス	772	549	1,321	-	1,321
関係会社（国内）					
機器販売	3,184	-	3,184	-	3,184
工事施工	-	6,721	6,721	-	6,721
保守・メンテナンス	4,881	1,412	6,293	-	6,293
関係会社（海外）					
機器販売	-	-	-	-	-
工事施工	-	1,284	1,284	-	1,284
保守・メンテナンス	-	929	929	-	929
太陽光発電事業	-	-	-	26	26
内部売上高	2,275	160	2,435	-	2,435
顧客との契約から生じる収益	38,731	24,963	63,694	26	63,721
外部顧客への売上高	38,731	24,963	63,694	26	63,721

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月30日)
1 株当たり四半期純利益	140円17銭	194円34銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,917	2,662
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	1,917	2,662
普通株式の期中平均株式数(株)	13,677,494	13,701,005

- (注) 1. 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 普通株式の期中平均株式数については、「株式給付信託 (J-ESOP)」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行 (信託E口) が保有する当社の普通株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。1 株当たり四半期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は、前第 2 四半期連結累計期間56,400 株、当第 2 四半期連結累計期間63,157株であります。

2 【その他】

2023年11月 1 日開催の取締役会において、当期中間配当について次のとおり決議いたしました。

配当金の総額.....839百万円

1 株当たりの金額.....61円00銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2023年12月 1 日

- (注) 1. 2023年 9 月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対して中間配当を行います。
2. 2023年11月 1 日取締役会決議による配当金の総額には、「株式給付信託 (J-ESOP)」の信託財産として信託口が保有する当社株式に対する配当金 3 百万円が含まれております。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月14日

東テク株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 新 居 伸 浩

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 天 野 清 彦

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東テク株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東テク株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期レビュー報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。